

2020 年 6 月 17 日

担当者: 若崎

## 世界石油需要 21年は増

IEA予測 20年比、日量570万ㇼ

【ロンドン＝篠崎健太】

国際エネルギー機関（IEA）は16日、2021年の世界の石油需要が、前年比570万ㇼ増の日量9740万ㇼになるとの予測を発表した。過去の最大の減少が想定される20年から持ち直す。航空燃料の回復は鈍く、新型コロナウイルスが広がる前の19年水準はなお大きく下回りそうだ。

IEAは6月の石油市場月報で、21年の需要予測を初めて示した。新型コロナウイルスで打撃を受けた経済活動の復旧が進み、過去最大の増加幅となる見通しだ。感染を抑え込むための都市封鎖（ロックダウン）で世界経済が急激に収縮した20年4〜6月期を底に石油需要は回復をたどるとみている。

ただ21年の世界需要は、コロナ前の19年（日量9980万ㇼ）と比べると日量240万ㇼ下回る。主な要因は、旅客数の低迷が長引くとみられる。

航空機向けの不振だ。ジェット燃料は20年に日量300万ㇼ落ち込んだ後、21年は日量100万ㇼの伸びにとどまる見通し。IEAは「航空は21年まで需要の足を引っ張り続ける」と指摘した。20年の石油需要は前年比810万ㇼ減の日量9170万ㇼと予測し、5

月時点より日量50万ㇼ上方修正した。経済活動の再開が想定より早く進んでいるため、1〜3月期は日量40万ㇼ、4〜6月期は日量210万ㇼそれぞれ引き上げた。けん引役は中国で、IEAは中国では7〜9月期に前年水準を回復する可能性がある」とみている。



# ウメモト インフラオメーション



2020年 6月 17日

担当者

山本

## 4月内航油送船輸送量

### 白油82% 黒油103%

日本内航海運組合総連合会は、内航海運の貨物船・油送船の主要元請オペレーター合計60社の4月輸送量（内航輸送量全体の80%以上を占める）調査結果を公表した。油送船の輸送量は824万9000トン・リットルで前年同月比87%、4カ月連続で前年を下回った。

油種別にみると、黒油（16社）は210万8000トン・リットル、103%と前年の水準を上回った。ただ一昨年と比較すると7%程度

減った。製油所の定期修理を見越して製油所間の転送が増加。一方、電力需要の落ち込みに加えてバンカー需要や産業用A重油が減少した。

白油（13社）は454万5000トン・リットル、82%。4カ月連続で前年を割り込んだ。80%台は2カ月連続。緊急事態宣言による県境をまたいだ移動の自粛などもあり、ガソリン需要は縮小。また航空便の運休などにより航空燃料も減少した。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報



# ウメモト インフラオメーション



2020年6月17日 担当者

小松

## 光合成藻類バイオで協業

### JXTGHD

JXTGホールディングスは15日、バイオベンチャーのちとせバイオエボリューション（本社シンガポール）と、藻類バイオマスの培養規模拡大と藻由来の燃料や化学製品などの製品開発で協業する契約を締結したと発表した。契約締結に先立ち3月末、100%子会社JXTGイノベーションパートナーズを通じて、ちとせに資本参画したことも明らかにした。

ちとせグループは、太陽エネルギーの光合成利用を最大限活用した藻類の大規模培養技術に強いバイオベ

### ベンチャーと培養拡大・製品開発

ンチャー企業群。国内だけでなくマレーシアやシンガポールをはじめ東南アジアで農業や食品、エネルギーといった幅広い分野で事業を展開している。

協業はJXTG、ちとせ両グループで光合成を活用した低炭素・循環型社会を実現するための取り組みの一環。まず藻類バイオマスの大規模な安定生産に向け、太陽エネルギーが豊富な赤道直下のマレーシアで藻類培養の規模拡大に取り組み。さらに生産した藻類から燃料やケミカル、飼料、機能性素材などの製品開発に取り組み事業化を目指す方向だ。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報